



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年10月31日

上場会社名 株式会社ホットマン 上場取引所 東
コード番号 3190 URL <http://www.yg-hotman.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 伊藤 信幸
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役兼管理本部長 (氏名) 柳田 聡 TEL 022-243-5091
四半期報告書提出予定日 2023年11月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の業績 (2023年4月1日～2023年9月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	9,106	△1.2	△208	—	△181	—	△150	—
2023年3月期第2四半期	9,221	5.7	△192	—	△162	—	△140	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	△21.36	—
2023年3月期第2四半期	△19.86	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	15,989	6,808	42.6	965.04
2023年3月期	15,911	7,000	44.0	992.15

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 6,808百万円 2023年3月期 7,000百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期 (予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の業績予想 (2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,900	0.4	400	5.6	450	3.0	200	6.8	28.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	7,275,500株	2023年3月期	7,275,500株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	220,000株	2023年3月期	220,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	7,055,500株	2023年3月期2Q	7,055,500株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における我が国の経済環境は、コロナ禍からの経済活動正常化の動きが続くことから、緩やかな回復が続くことが期待される一方、物価上昇、供給面での制約及び為替変動による影響が懸念され、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社におきましても、仕入価格、水道光熱費及び備品価格の上昇等費用は増加傾向にあり、また物価上昇が今後も続くことが消費の抑制要因になることが予想され、厳しい状況が続いております。

そのような環境の中、会社方針に『遂げずばやまじ（成功するためには成功するまで続けることである）』を掲げました。今後当社がさらなる成長発展を可能にしていくために必要な事業への投資、また店舗移転に伴う設備投資等を積極的に進めていく方針を固め、社員が丸一となって協力し合うことにより変化の厳しい状況においても売上及び収益を確保するべく業務に取り組んで参りました。

2023年4月に宮城県栗原市に当社2号店となるシャトレーゼ築館店をグランドオープン（プレオープンは同年3月）及び2023年8月に宮城県仙台市若林区にあるTSUTAYAやまとまち店を退店致しました。当第2四半期会計期間末の店舗数は、イエローハットが90店舗、TSUTAYAが8店舗（前年同期間比1店舗減）、アップガレージが8店舗、カーセブンが3店舗、ダイソーが6店舗、宝くじ売場が5店舗、コメダ珈琲店が1店舗、シャトレーゼが2店舗（前年同期間比1店舗増）の合計123店舗となっております。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高は9,106百万円となり、前年同期間比114百万円（前年同期間比1.2%減）の減収となりました。経常損失につきましては181百万円（前年同期間は経常損失162百万円）となりました。四半期純損失は150百万円（前年同期間は四半期純損失140百万円）となりました。減収減益の要因は主として、イエローハット事業における2022年10月のタイヤ値上げに伴う駆け込み需要の反動減及びTSUTAYA事業における消費行動の変化に伴う販売低迷によるものとなっております。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

[イエローハット]

当社の主たる事業であるイエローハット事業におきましては、コロナ禍で減少した来店客数の回復をはかるべく、車検を中心としたカーメンテナンスの販売に注力したものの、2022年10月のタイヤ値上げに伴う駆け込み需要の反動減により、当第2四半期累計期間の売上高は概ね横ばいに推移したものの粗利率が低迷致しました。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高6,784百万円（前年同期間比1.3%減）、セグメント損失（営業損失）は11百万円（前年同期間は31百万円のセグメント利益（営業利益））となっております。

[TSUTAYA]

TSUTAYA事業におきましては、消費行動の変化に伴う販売低迷及び2023年8月に宮城県仙台市若林区にあるTSUTAYAやまとまち店の退店もあり、当第2四半期累計期間の売上高も低調に推移致しました。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高843百万円（前年同期間比16.5%減）、セグメント損失（営業損失）は38百万円（前年同期間53百万円のセグメント損失（営業損失））となっております。

[アップガレージ]

アップガレージ事業におきましては、売上高は概ね横ばいで推移致しましたが、収益構造の見直し等による粗利率の向上に注力したことにより、当第2四半期累計期間は営業利益に改善が見られました。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高452百万円（前年同期間比0.2%減）、セグメント利益（営業利益）は4百万円（前年同期間比38.2%増）となっております。

[その他]

2023年4月に宮城県栗原市に当社2号店となるシャトレーゼ築館店をグランドオープン（プレオープンは同年3月）致しました。シャトレーゼ事業は出店以来お客様の来店状況も良く、全体売上高に貢献致しました。

ダイソー事業、保険事業、カーセブン事業及び不動産賃貸事業におきましては、売上高は好調に推移致しました。

コメダ事業及び宝くじ事業におきましては、売上高は低調に推移致しました。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高1,026百万円（前年同期間比16.4%増）、セグメント利益（営業利益）は43百万円（前年同期間比14.4%減）となっております。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は243百万円減少し、7,893百万円（前事業年度末8,137百万円）となっております。これは主に、商品が344百万円増加したものの、売掛金が271百万円及び未収入金（その他の流動資産）が302百万円減少したことによるものであります。

また、固定資産の残高は321百万円増加し、8,096百万円（前事業年度末7,774百万円）となっております。これは主に、土地が177百万円及び建設仮勘定（その他の有形固定資産）が190百万円増加したことによるものであります。

この結果、資産合計残高は15,989百万円（前事業年度末15,911百万円）となっております。

② 負債

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は143百万円増加し、6,518百万円（前事業年度末6,374百万円）となっております。これは主に、買掛金が754百万円及び未払法人税等が126百万円減少したものの、短期借入金が1,000百万円増加したことによるものであります。

また、当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は125百万円増加し、2,662百万円（前事業年度末2,536百万円）となっております。これは主に、長期借入金が116百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計残高は9,181百万円（前事業年度末8,911百万円）となっております。

③ 純資産

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は191百万円減少し、6,808百万円（前事業年度末7,000百万円）となっております。これは主に、四半期純損失を150百万円計上及び剰余金の配当を70百万円支払ったこと等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月9日の「2023年3月期 決算短信」で公表致しました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	989,110	983,943
売掛金	793,060	521,555
商品	5,784,832	6,128,940
貯蔵品	1,914	2,326
その他	568,544	256,961
流動資産合計	8,137,462	7,893,727
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,362,231	2,289,899
土地	2,320,859	2,498,358
その他（純額）	673,794	849,811
有形固定資産合計	5,356,886	5,638,069
無形固定資産	23,895	22,168
投資その他の資産	2,393,647	2,436,029
固定資産合計	7,774,429	8,096,266
資産合計	15,911,892	15,989,993
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,560,848	806,159
短期借入金	3,050,000	4,050,000
1年内返済予定の長期借入金	309,993	358,324
未払法人税等	170,920	43,935
賞与引当金	90,416	116,666
契約負債	434,077	444,573
その他	758,627	699,181
流動負債合計	6,374,882	6,518,840
固定負債		
長期借入金	516,683	633,355
退職給付引当金	1,585,942	1,594,750
役員退職慰労引当金	161,722	163,917
資産除去債務	175,954	177,602
その他	96,609	92,682
固定負債合計	2,536,911	2,662,307
負債合計	8,911,793	9,181,148
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,910,645	1,910,645
資本剰余金	500,645	500,645
利益剰余金	4,591,227	4,369,935
自己株式	△108,380	△108,380
株主資本合計	6,894,137	6,672,846
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	105,960	135,999
評価・換算差額等合計	105,960	135,999
純資産合計	7,000,098	6,808,845
負債純資産合計	15,911,892	15,989,993

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	9,221,355	9,106,456
売上原価	4,890,704	4,867,592
売上総利益	4,330,650	4,238,863
販売費及び一般管理費	4,523,385	4,447,759
営業損失(△)	△192,734	△208,896
営業外収益		
受取配当金	7,420	6,989
受取手数料	9,636	11,318
産業廃棄物収入	7,349	6,521
その他	21,733	21,142
営業外収益合計	46,139	45,972
営業外費用		
支払利息	11,229	10,389
その他	4,351	7,770
営業外費用合計	15,581	18,160
経常損失(△)	△162,175	△181,083
特別利益		
固定資産売却益	—	49
関係会社株式売却益	105,101	—
特別利益合計	105,101	49
特別損失		
固定資産除却損	3,169	5,950
関係会社株式評価損	59,160	—
貸倒引当金繰入額	48,192	—
解体撤去費用	1,200	—
特別損失合計	111,722	5,950
税引前四半期純損失(△)	△168,796	△186,983
法人税、住民税及び事業税	19,632	19,206
法人税等調整額	△48,280	△55,452
法人税等合計	△28,648	△36,246
四半期純損失(△)	△140,148	△150,736

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 損益計算書 計上額 (注3)
	イエロー ハット	TSUTAYA	アップ ガレージ	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	6,877,146	1,009,268	453,718	8,340,134	881,221	9,221,355	—	9,221,355
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	5,840	1,060	25	6,926	10,528	17,454	△17,454	—
計	6,882,987	1,010,329	453,744	8,347,060	891,749	9,238,810	△17,454	9,221,355
セグメント利益 又は損失(△)	31,629	△53,196	3,052	△18,514	50,858	32,344	△225,078	△192,734

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイソー事業、コマダ事業、シャトレーゼ事業及び保険収入等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△225,078千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第2四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 損益計算書 計上額 (注3)
	イエロー ハット	TSUTAYA	アップ ガレージ	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	6,784,367	843,084	452,873	8,080,325	1,026,131	9,106,456	—	9,106,456
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	10,173	684	150	11,008	15,089	26,097	△26,097	—
計	6,794,541	843,768	453,024	8,091,333	1,041,220	9,132,554	△26,097	9,106,456
セグメント利益 又は損失(△)	△11,695	△38,211	4,218	△45,687	43,514	△2,173	△206,722	△208,896

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイソー事業、コマダ事業、シャトレーゼ事業及び保険収入等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△206,722千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。